

ぶらりらいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 22

- ★ 来館者の方からの質問事項をもとに昭和館図書室の図書を紹介します。
(書名の後の()内の数字は請求記号です。)

問 昭和10年から20年頃までの郵便料金・小包料金を知りたい

答 1. 郵便料金について
『戦後値段史年表』(337 Sh99 開架)
『逓信事業史』(692 Te28)

検索のしかた

図書・雑誌 → 図書 → ことば → 郵便料金 (18件該当)

2. 小包料金について
『執務便覧』(337 Sh99)
『世界軍事郵便概要』(395.9 Mi64)

検索のしかた

図書・雑誌 → 図書 → ことば → 小包 (88件該当)

※ 小包料金というキーワードでは該当する図書が出てきません。

このほかに『最新海軍書簡文範』(397.9 B97)に、昭和13年の郵便・小包料金が載っています。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等がわからない場合は、カウンター職員までお気軽に…。

・・・もう一冊！！！！・・・ ⑳

今回は蔵書票の話のつもりでしたが、関係図書が多いので、次回にします。今回は、本の修理について見てみます。

本当は大事に読めば100年や200年は何でもないのが、「ちゃんとした本」なのですが、最近の本ときた日には2～3日で背中が割れてしまうような情けない本も有ります。一番いけないのは、無線綴じの本です。だいたい本は「印刷された紙を綴じた」ものなのに、背中を糊で貼っただけで「綴じ」とは、詐欺のようなものです。

図書館では多くの人が利用するために、本が壊れることが有ります。壊れるのは、ある程度は止むを得ませんが、問題は修理です。

一番望ましい本式の修理は、本を綺麗に分解して綴じなおすことなのですが、これが無線綴じでは出来ないのです。実際の問題として修理の多い図書館では、本式の修理はよほどの貴重書しか出来ず、多くは簡易修理になりますが、それにしても無線綴じの本はちゃんとした修理が難しいのです。筆者に言わせれば、「無線綴じは本じゃありません」。岩波文庫が無線綴じになったときには、本当にかっかりしたのを覚えています。

さて、図書館の本の修理はあまり時間を掛けられません、そこで、比較的重要なものは製本業者に出して修理しますが、本の背をミシンでザクザクと縫い付けて綴じるか、千枚通しで打ち抜き、麻糸で綴じるのが主流です。どれも本としては望ましいものでは有りませんが、これが現状です。

簡単なものは、館内で職員が修理しています。本の修理の講習会があったりするくらいで、図書館員の大事な仕事です。

今回は、壊れた本を前にしてボヤキになってしまいましたが、何と云っても一番は「本を壊さないこと」昭和館の本は、どれもこれも貴重な本ですから、大切に見てください。特にコピーの時に本を強く押すのが一番壊れる原因です。そっとお願ひします。

(午睡)

— 図書館から —

新緑の季節、深呼吸をすると青葉や若葉の匂いがしませんか。穏やかな光の下で、ゆったりと読書なんて…いいですね。

* 「ぶらりらいぶらりい」のデザインがかわりました。

新年度になり、紙面をちょっと楽しいデザインに変えてみました。

「ぶらりらいぶらりい」に関するご意見ご感想などお寄せください。なお、バックナンバーをご入用の方は、カウンターにお申しつけください。

ぶらりらいぶらりい ～図書館にはこんな本があります～ No. 22
2001年4月24日 発行
編集・発行 昭和館 図書館
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1